



# インド市場の現状とスズキの展望

## Japan Mobility Conference 2023

2023年10月24日


スズキ株式会社  
副社長 鮎川 堅一



1. スズキ株式会社について
2. インド市場について
3. 今後の展望
4. JAPAN MOBILITY SHOW 2023 出品概要

# 1. スズキ株式会社について

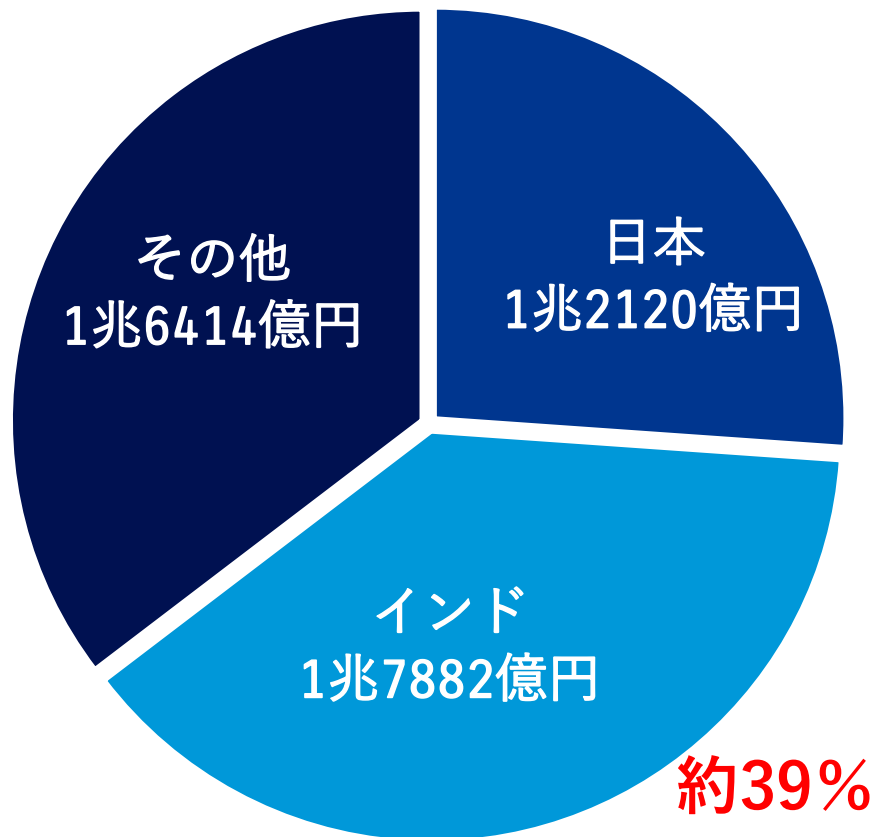
---

<b>社名：</b>	スズキ株式会社	
<b>設立年月：</b>	1920年（大正9年）	
<b>代表者：</b>	鈴木 俊宏（代表取締役社長）	
<b>連結従業員数：</b>	70,012人	
<b>連結売上高：</b>	4兆6,416億円（2023年3月期）	
<b>本社所在地：</b>	静岡県浜松市	
<b>連結子会社数：</b>	120社（国内：66社、海外：54社）	

※2023年3月末時点

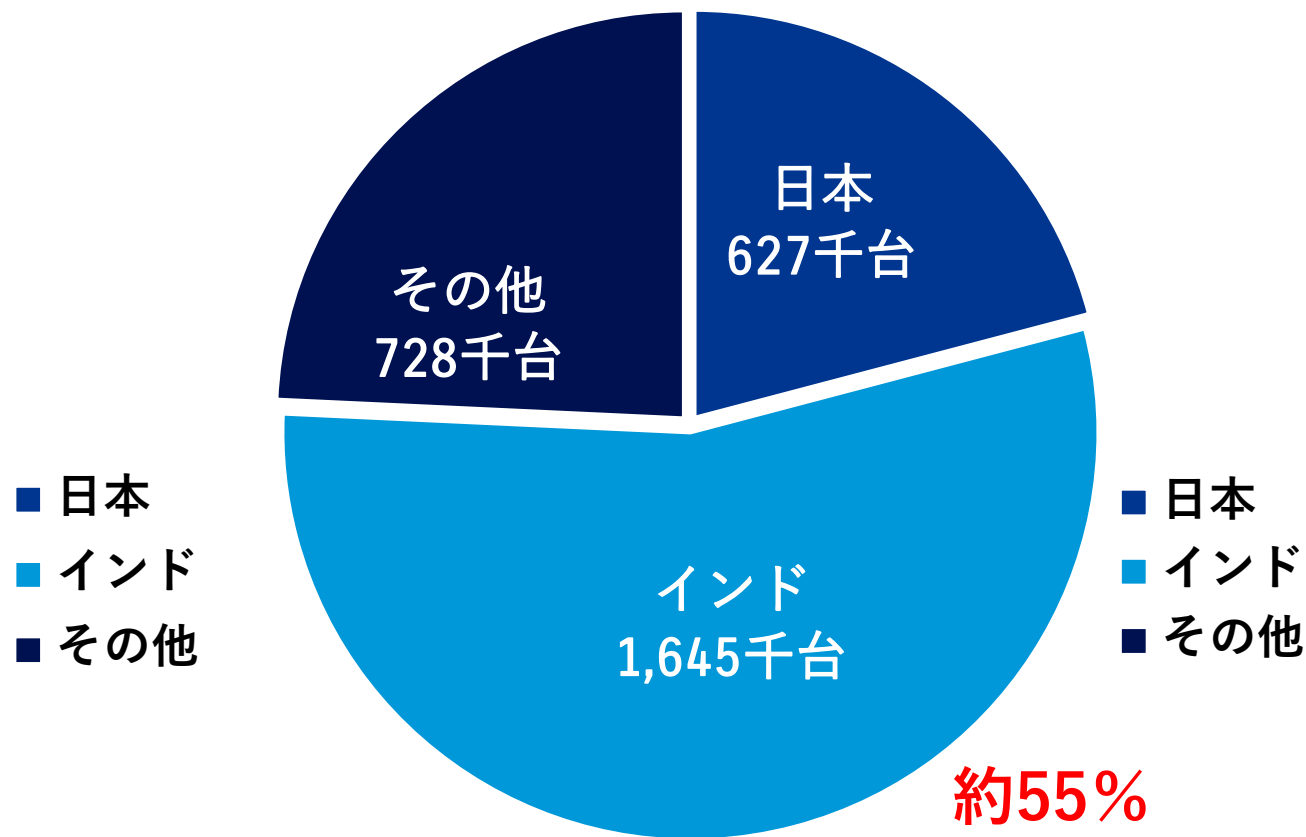
## 連結売上高（地域別）

2022年度 4兆6,416億円



## 四輪販売台数（地域別）

2022年度 3,000千台



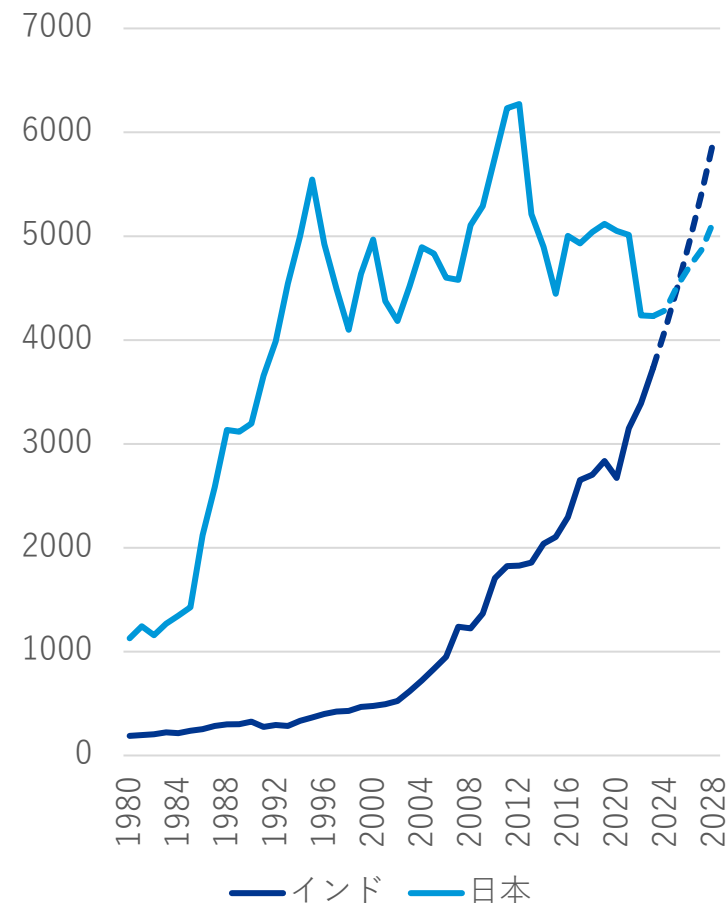
## 2. インド市場について

---

# インド経済概況 | 実質国内総生産(GDP)・経済成長率・人口

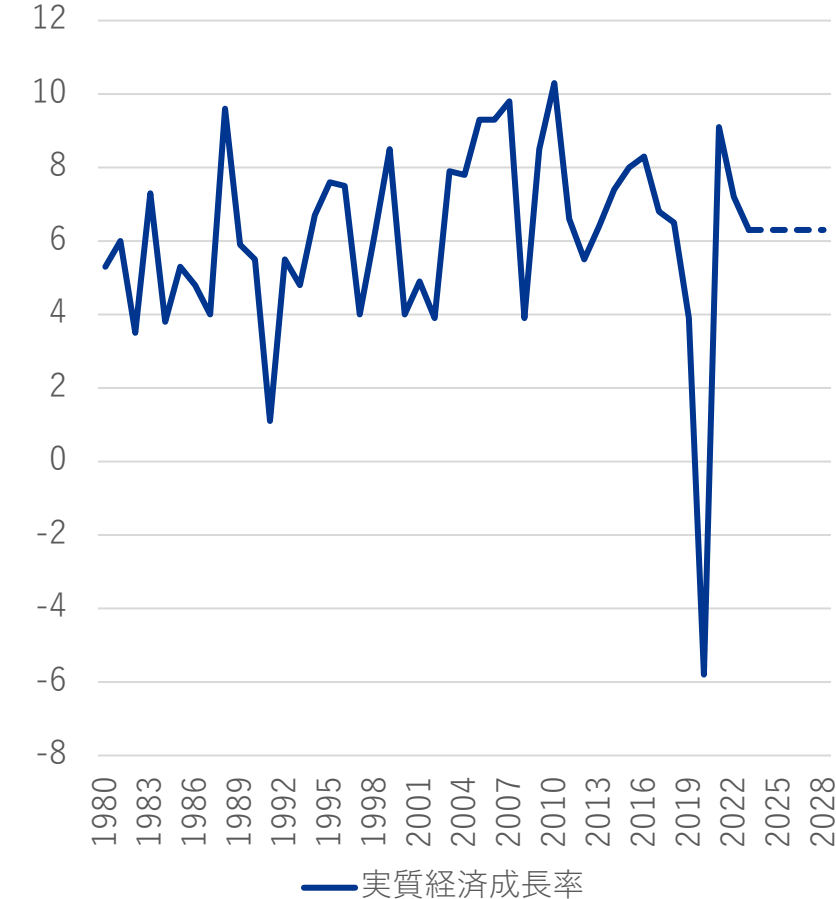
## 実質国内総生産(GDP)

(10億米ドル)



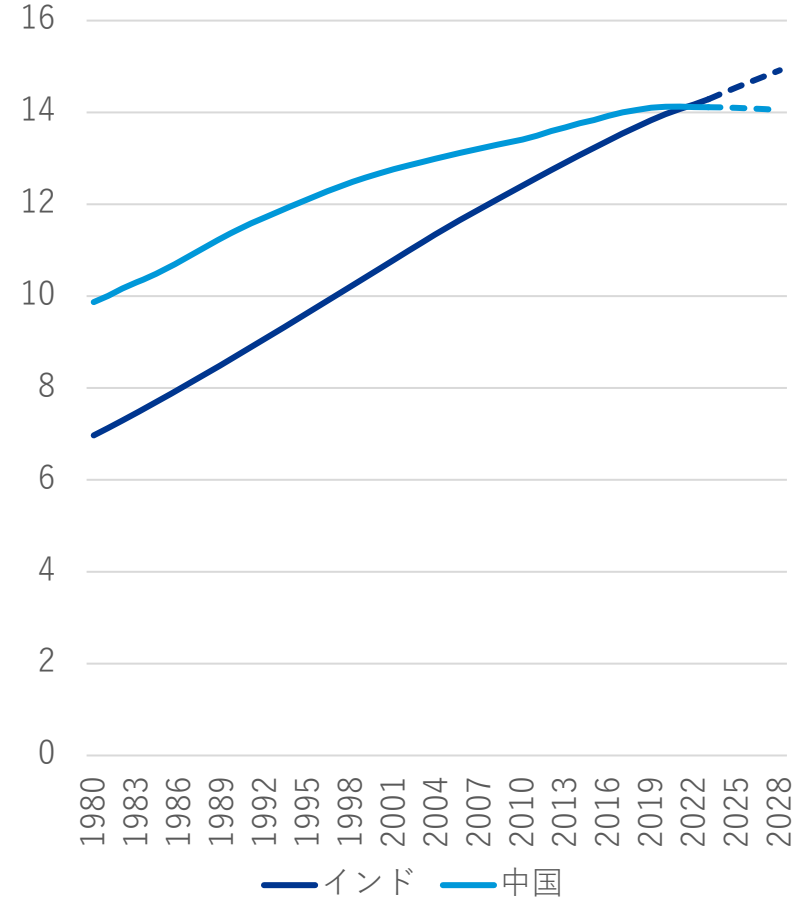
## 経済成長率

(%)



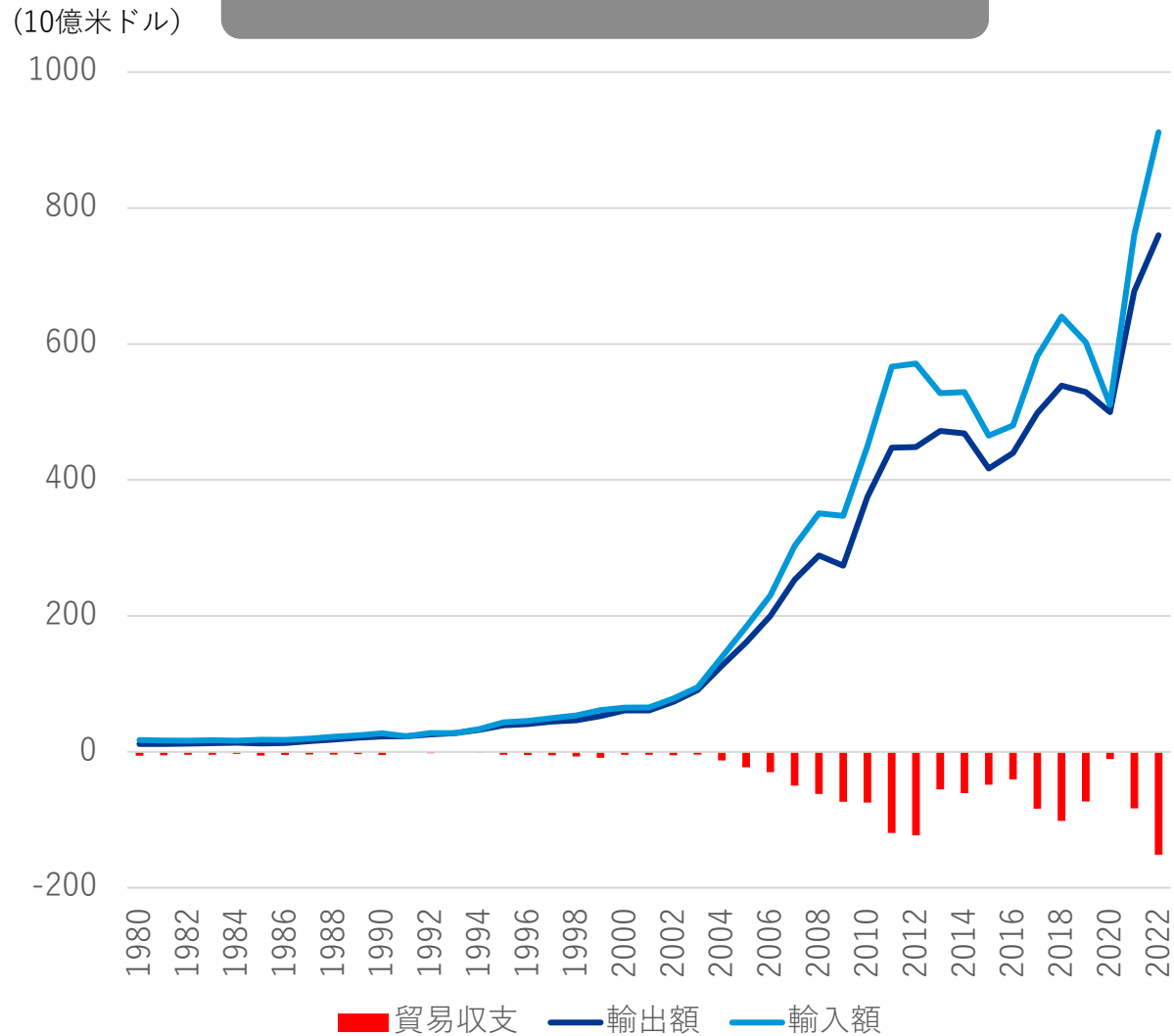
## 人口

(億人)



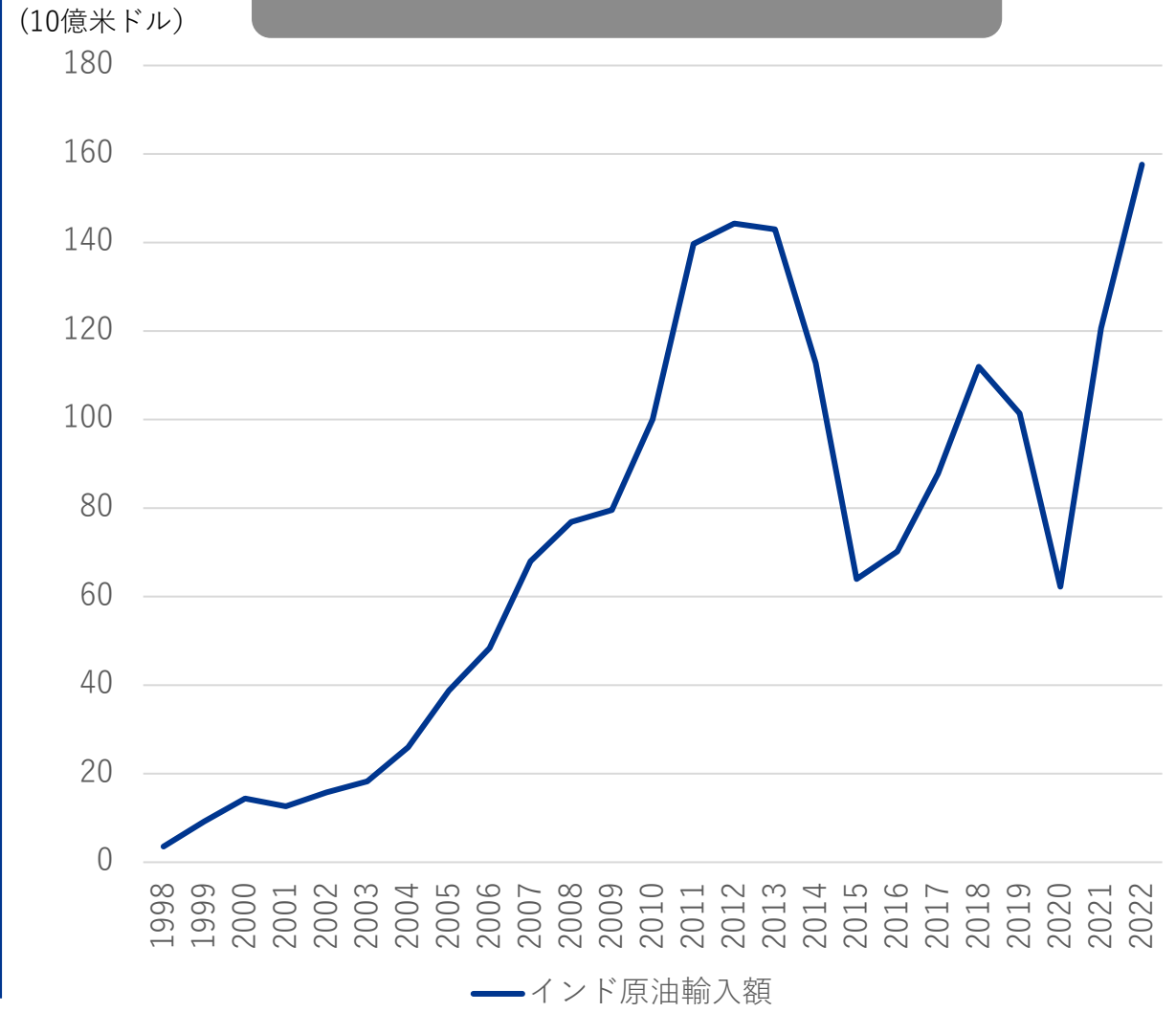
出典は全てIMF。グラフ破線（2023年度～2028年度）はIMF予測。

## 貿易収支



出典：macrotrends

## 原油輸入額



出典：インド石油天然ガス省石油計画分析室(PPAC)

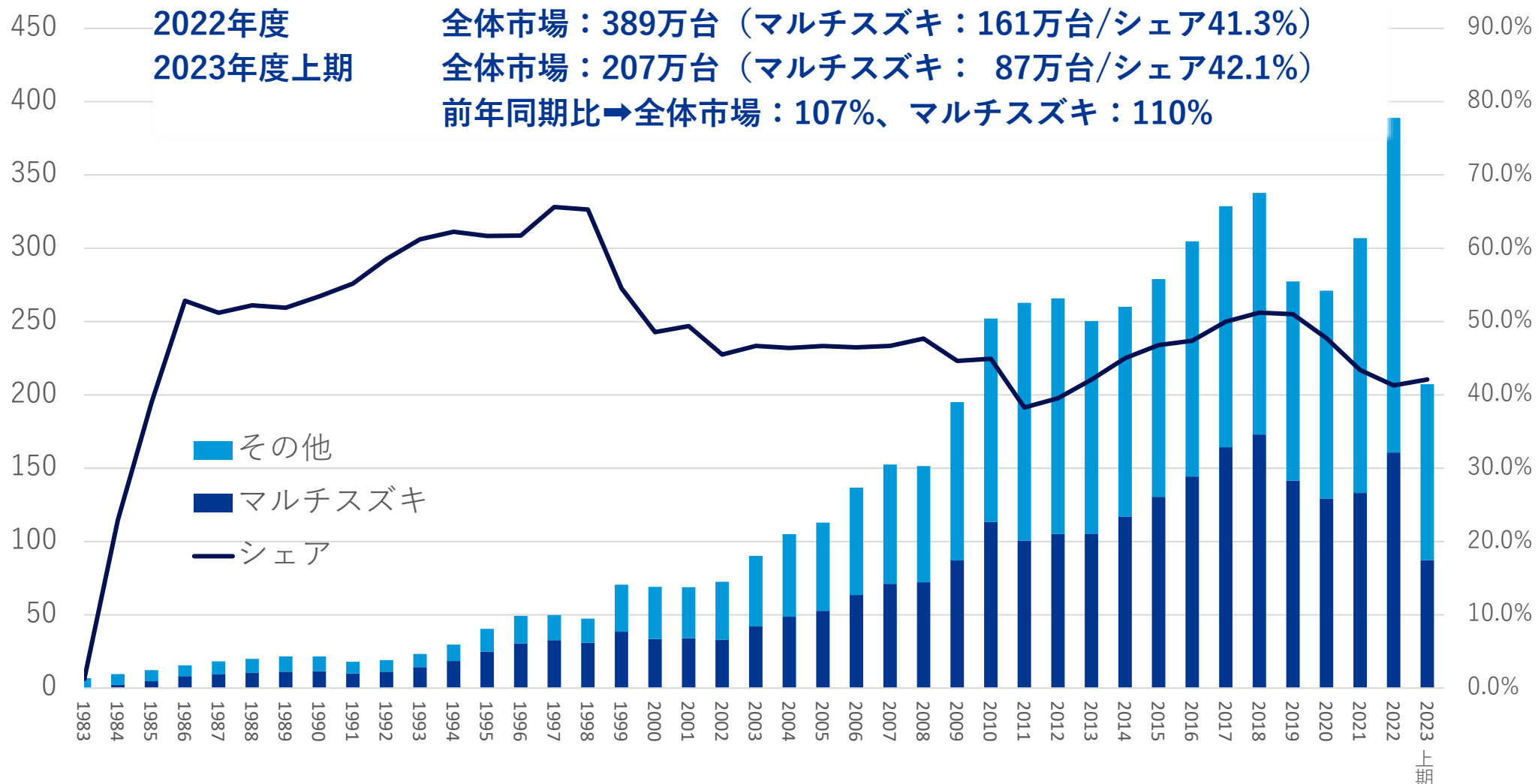
© Suzuki Motor Corporation, 2023. All rights reserved.



# インド市場乗用車販売推移

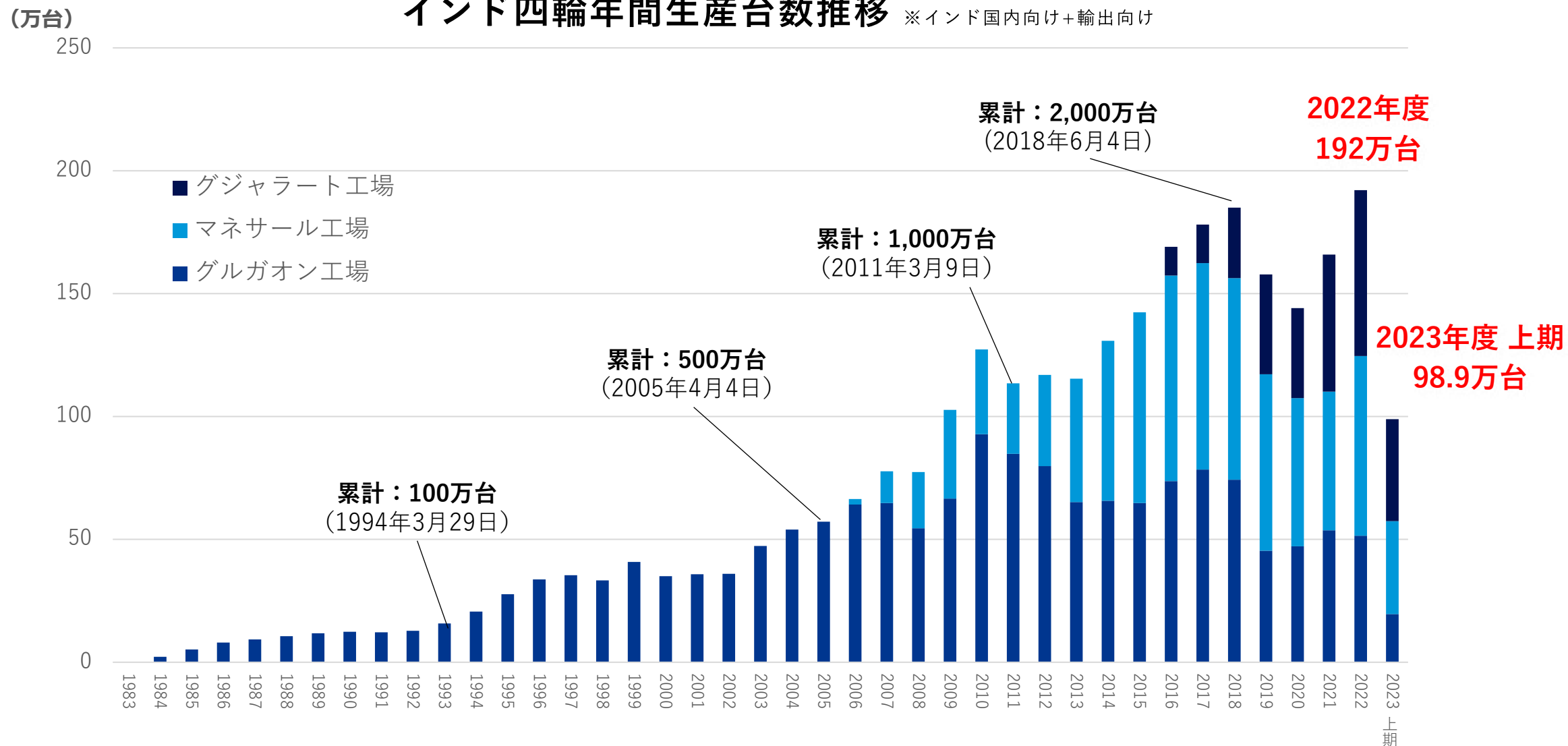
(万台)

## インド市場乗用車販売推移 ※商用車を除く



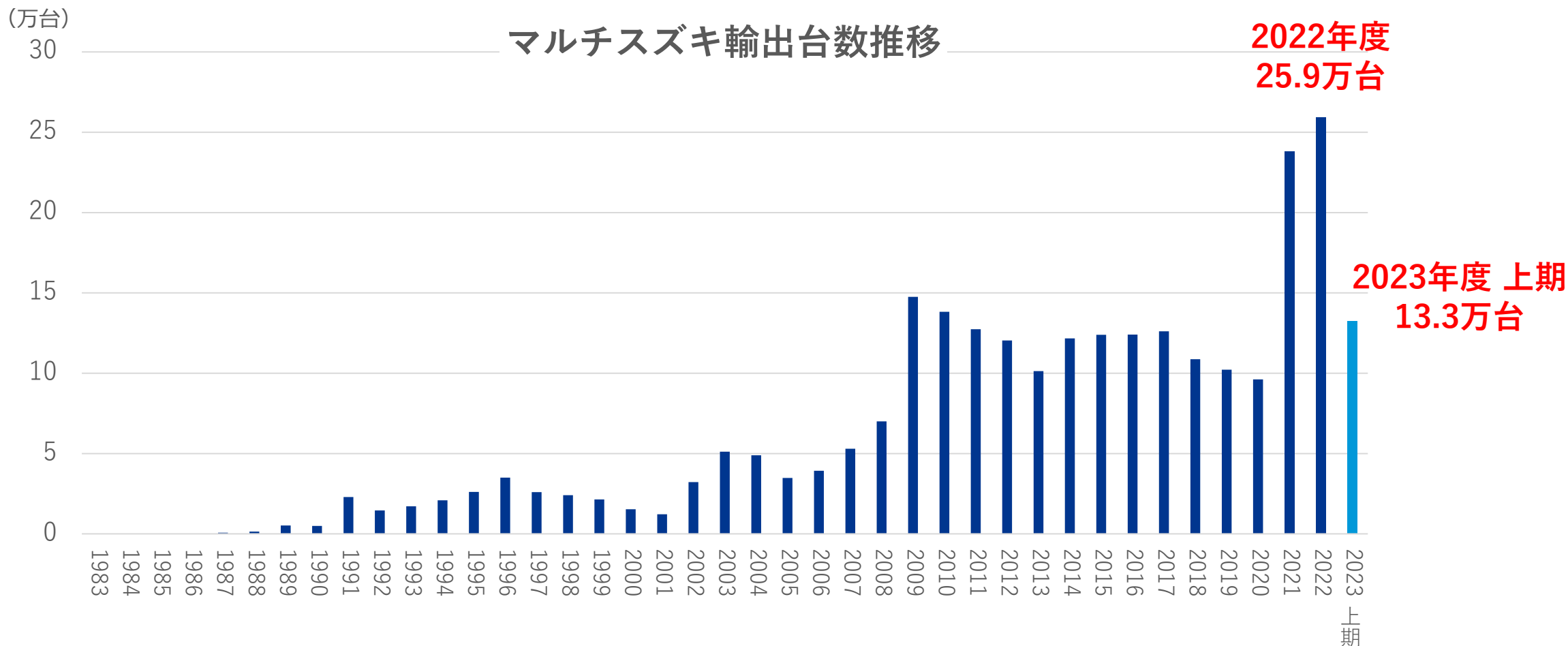
# インド生産実績推移

## インド四輪年間生産台数推移 ※インド国内向け+輸出向け



2022年度：25.9万台（前年比109%）を達成 ⇒ 過去最高

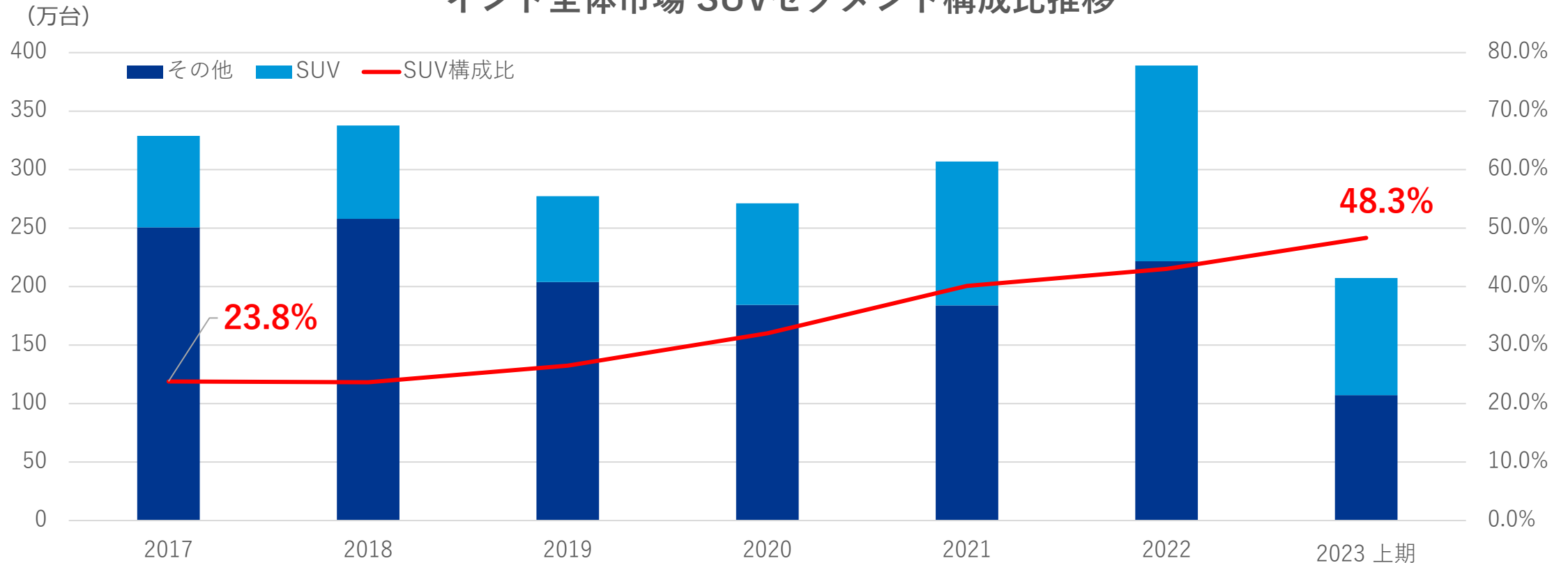
※直近5年間で2.3倍に伸長



# 全体市場：SUVセグメントの構成比が大幅に上昇

2017年度 **23.8%** → 2023年度上期 **48.3%**

インド全体市場 SUVセグメント構成比推移



## SUVの新モデル投入



Fronx (2023年4月販売開始)



Jimny 5-Door (2023年6月販売開始)

## SUVシェアの増加

2023年度上期：**21.7%** ※2022年度通期：12.1%

排ガス法規の動向

2020年4月

インドの排ガス規制「BS6」導入

2023年4月

RDE基準を追加した規制が強化された  
(BS6フェーズ2)

※RDE…デリー近郊の所定ルートにおける  
実走行試験による排ガス基準をクリア  
すること

安全規制・新制度の動向

BNCAP (インド自動車安全評価プログラム)

自動車の衝突安全性を☆で評価し、自動車  
購入者に提供するプログラム



スズキとマルチスズキで協力して対応していく

# 3. 今後の展望

---

## インド経済成長目標 “Amrit Kaal” (成長と繁栄の時代)

- インド独立100周年を迎える2047年までの25年間で世界第2位の経済規模を目指す
- 経済とCNを両立させる政府方針

インド全体市場：  
**600万台**  
マルチスズキ：  
**300万台 (シェア50%)**  
6モデルのBEVをラインナップ

- マルチスズキ：  
インド初のBEV投入

インド全体市場：  
前年比+5~7%  
マルチスズキ：  
上記を上回る見通し

乗用車市場：389万台  
マルチ：161万台  
シェア：41.3%

カーボン  
ニュートラル  
達成目標

2022年度 2023年度 2024年度

2030年度

2047年 2070年

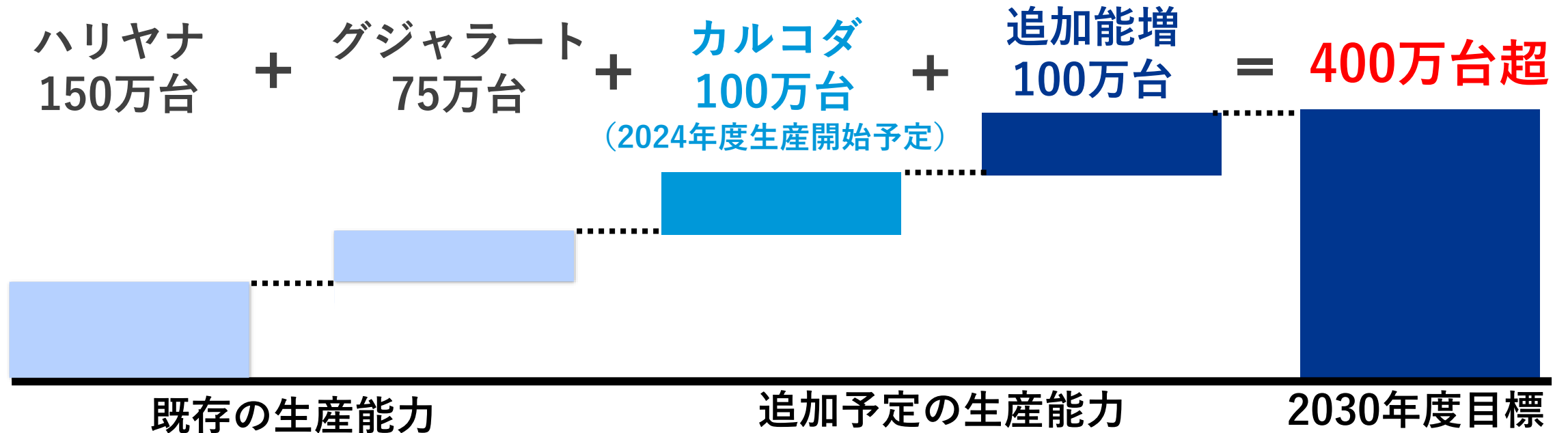
### インドは中長期的にまだまだ成長が見込める市場



## 生産能力

2030年度目標 **400万台/年(2022年度比約2倍)**

市場の伸びに合わせて継続的な能力増強 : 100万台の追加を発表



2023年7月31日

スズキモーターグジャラート社のマルチスズキへの売却を発表

<スズキモーターグジャラート>

2014年3月：会社設立

2017年2月：第1工場SOP（生産能力25万台/年）

2019年1月：第2工場SOP（生産能力50万台/年）

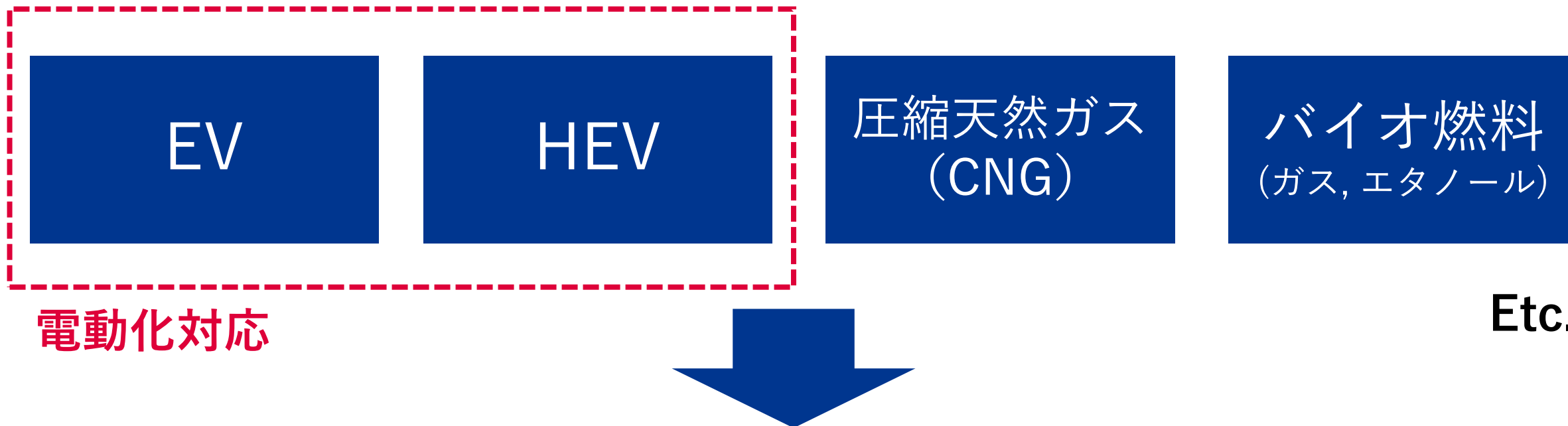
2021年4月：第3工場SOP（生産能力75万台/年）



マルチスズキへの  
生産機能の集約に  
よる生産性向上

## 四輪事業：マルチパスウェイ

⇒ 地域・市場にあった適切な方法でカーボンニュートラルの達成を目指す

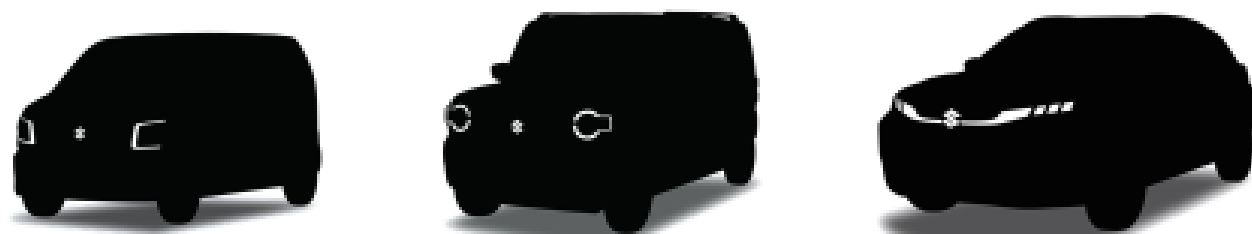


# カーボンニュートラルの達成

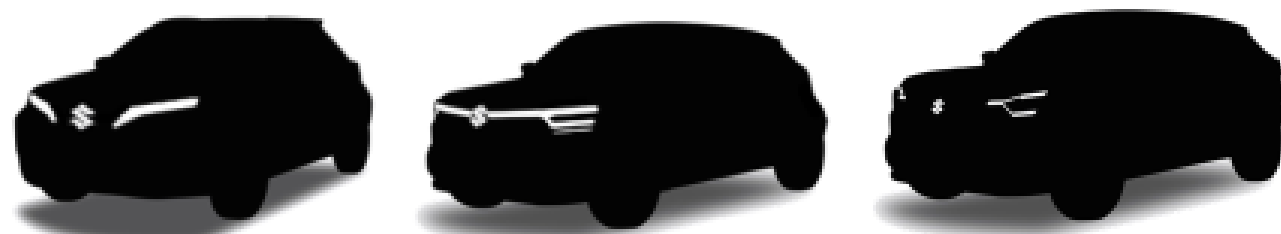
## 2030年度までの製品計画 (インド)

# 2024年度にバッテリーEV初投入

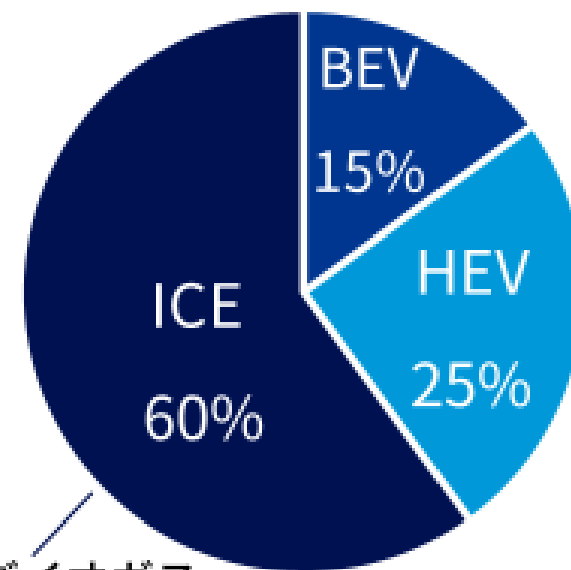
### バッテリーEVラインナップ



## 6モデルを展開



### パワートレイン比率



CNG、バイオガス、エタノール配合燃料など

2022年3月、電気自動車(BEV)、及びBEV向け車載用電池の現地生産他の投資についてインド・グジャラート州と覚書を締結（約1,044億ルピー）

スズキはインドへの積極的な投資を継続し、インド政府が掲げる“自立したインド(Self-reliant India)”の実現に貢献します。



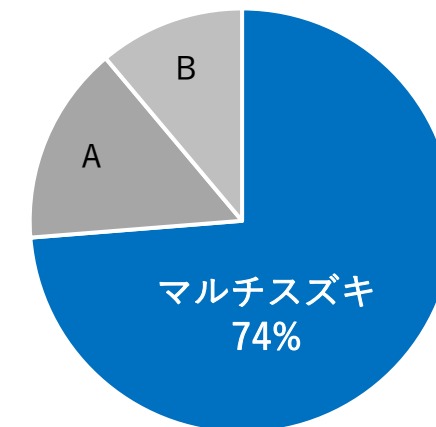
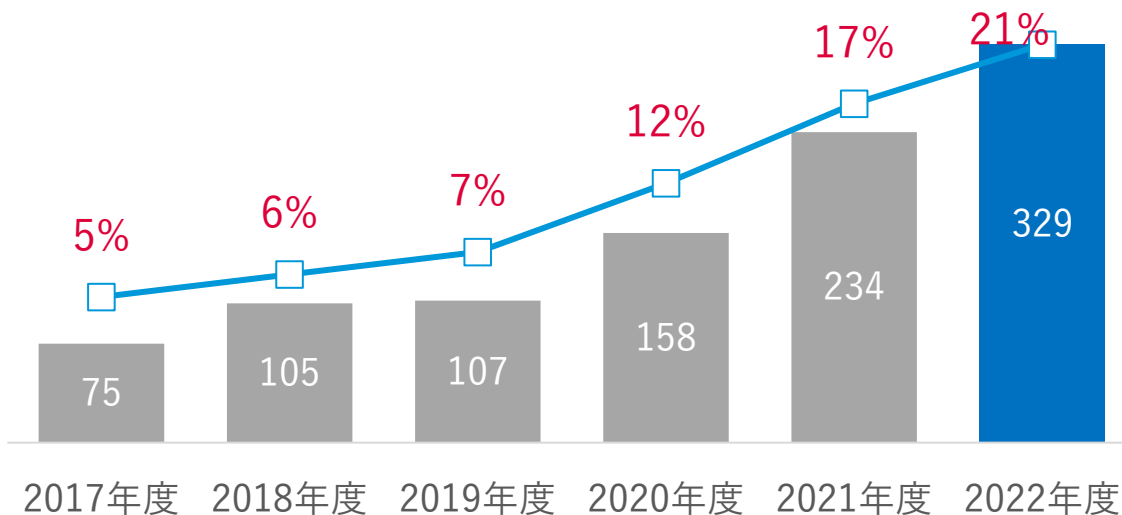
(写真：内閣広報室提供)

	会社	内容	投資額	稼働時期
1	スズキモーターグジャラート社	BEV生産のための生産能力増強	310億 <sup>ルピー</sup>	2025
2	スズキR&Dセンター社	BEV向け車載用電池工場の建設 (SMG隣接地)	730億 <sup>ルピー</sup>	2026
3	Maruti Suzuki Toyotsu India Private Limited	車体解体・リサイクル工場の建設	4.5億 <sup>ルピー</sup>	2025

## 圧縮天然ガス (CNG)

- CNG車は、低価格で低CO2排出が特徴
- 乗用車14機種、商用車1機種にCNG仕様を設定
- CNG車のマルチスズキシェアは、74% (2022年度)
- インド政府もCN達成に向けて、CNG車活用を掲げる

インドでのマルチスズキのCNG車の販売台数 (千台)  
マルチスズキ販売車両におけるCNG車の割合 (%)



CNG車シェア内訳(2022年度)





## 牛糞由来バイオガス(CBG)

従来：大気中のCO<sub>2</sub> ⇒ 牧草（光合成） ⇒ 牛の餌 ⇒ 糞尿 ⇒ メタンが大気中に放出

メタンは温室効果がCO<sub>2</sub>の28倍も高い

牛糞(資源)を回収・バイオガス精製 ⇒ 自動車燃料に使用



アフリカをはじめとしたインド以外の新興国にも展開可能

バイオガスには "世界を変える" 力がある





2023年9月

## バイオガス生産プラントの設置について3者で合意

スズキ (SRDI)

アジア最大の乳業メーカー

Banas Dairy社



インド政府機関

全国酪農開発機構

2025年～

## 順次4つのバイオガス生産プラントを設置

- 予定投資額は合計23億ルピー（約40億円）
- 各プラントにはバイオガス充填スタンドを併設、CNG仕様車の燃料として販売



インド大使館で行われた契約締結式  
(2023年9月6日)

# 4. JAPAN MOBILITY SHOW 2023 出品概要

---

# 世界中、 ワクワク、 アッサーを。

## メッセージ

将来のカーボンニュートラルにむけたスズキの多様な取り組みを、  
スズキらしいモビリティやサービスでお客様にお届けする。

< 参考出品車 >

## スズキのEV世界戦略車第一弾「eVX」

- 2023年1月にインドで開催された「Auto Expo 2023」で公開したエクステリアを進化させるとともに、インテリアを初めて公開
- 電子制御の四輪駆動技術をさらに進化させ、スズキのSUVに相応しい本格的な走行性能を実現するEVモデルとしてご提案

### 【主要諸元（参考値）】

- 全長4,300mm × 全幅1,800mm × 全高1,600mm
- 航続距離：500km



<参考出品車>

## 毎日の生活に寄り添う軽ワゴンEV「eWX」

- スズキの軽自動車の特長である楽しく実用的な軽ワゴンと、EVらしい先進感をクロスオーバーさせたコンセプトモデル
- EVらしくすっきりとしたシンプルなボディ造形に、親しみやすいキャラクターを施したエクステリアと、軽やかで使いやすく居心地の良い室内空間で、毎日の生活を支える「相棒」のような存在を表現



### 【主要諸元（参考値）】

- 全長3,395mm×全幅1,475mm×全高1,620mm
- 航続距離：230km

<参考出品車>

## 毎日の“はたらく”に寄り添うBEV商用軽バン「e EVERY CONCEPT」

- スズキ、ダイハツ工業株式会社、トヨタ自動車株式会社の3社で共同開発してきた、BEVシステムを搭載した商用軽バンのEVモデル
- 軽バンの使い勝手の良さはそのままに、EVならではの静かで力強い走りを実現するだけでなく、非常時にはクルマの電気を外部に供給するなど、地域社会へ貢献できるモデルとしてご提案

### 【主要諸元（参考値）】

- 全長3,395mm × 全幅1,475mm × 全高1,890mm
- 航続距離：200km





## <参考出品車>

### 「スペースア コンセプト」・「スペースア カスタム コンセプト」

- 個性的なスタイルと広い室内空間を持つスペースアに「日常をもっと楽しく便利に快適に！」の想いを詰め込んだコンセプトモデル
- 後席には、座面の前方に「マルチユースフラップ」をスズキとして初採用するなど、後席の快適性を向上
- 日常をユニークに彩る「心地よさ」と「ワクワク感」をデザインした「スペースア コンセプト」と、「上質感」と「華やかさ」をデザインした「スペースア カスタム コンセプト」を出品



< 参考出品車 >

## 「スイフト コンセプト」

- 「Drive&Feel」という言葉を大切に開発し続けてきた「スイフト」の新たな価値をご提案するコンセプトモデル
- 大切なのは、“モノ”ではなく“コト”。そう変化してきている世の中で、「スイフト コンセプト」は「デザイン」と「走り」だけではなく、「クルマと日常を愉しめる」という新しい価値を提供するモデルとしてご提案
- 衝突被害軽減ブレーキ「DSBSII」※1や「AHS」※2、「DMS」※3など数多くの先進安全技術を搭載
- 高効率エンジンの搭載などにより、走行性能と燃費性能の向上を両立



※1 デュアルセンサブレーキサポートIIの略  
※2 アダプティブハイビームシステムの略  
※3 ドライバーモニタリングシステムの略



<参考展示>

## インドでのCBG※事業（ワゴンR CBG車の展示）

- スズキは、農村の活性化、持続可能な循環型社会の実現とモビリティの提供を組み合わせることにより、インドの発展に貢献できると考え、2022年よりCBG事業に取り組んできた
- ブース内では、5月に開催された「G7広島サミット（主要国首脳会議）」に合わせた展示イベントに出品したインド市場向けの「ワゴンR CBG車」の展示や、パネル・映像などでインドでのCBG事業の取り組みをご紹介します



# JMS 出品 | その他 参考出品車

電動車いす  
「スズキセニアカー」



電動小型モビリティ  
次世代四脚モビリティ  
「MOQBA (モクバ)」



電動パーソナル/マルチユースモビリティ  
「SUZU-RIDE/SUZU-CARGO」



SUZU-RIDE



SUZU-CARGO



電動新モビリティ「SUZUKI GO!」



ラストマイル配送ロボット「LM-A」



# JMS 出品 | その他 参考出品車

折り畳み電動モペッド  
「e-PO (イーポ)」



アシスト自転車の電動ユニットを使用した  
近距離モビリティ「e-choinori (イーチョイノリ)」



電動スクーターの実証実験車  
「e-BURGMAN (イーバーグマン)」



<二輪技術展示車>  
水素エンジンバーグマン (試験車両)



電動船外機「Small e-outboard concept」





# JMS展示 | 事業紹介などの展示内容

< 参考展示 >

湖西工場での水素燃料電池荷役運搬車の実証 (パネル展示)



< 参考展示 >

軽トラ市を模した物販ブースと移動販売事業者向けサービス (アプリ)



< 参考展示 >

「空飛ぶクルマ」 (株式会社SkyDriveとの協業) の展示

- ・ ブース内では1/5サイズのスケールモデルを展示





#### 将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動（主に米ドル／円相場、ユーロ／円相場、インドルピー／円相場）などが含まれます。